再評価結果（平成１６年度事業継続箇所）

担　当　課：道路局 国道・防災課
担当課長名：中島　威夫

事業名	一般国道６号　相馬バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：福島県相馬市程田 至：福島県相馬郡新地町駒ヶ嶺			延長	９．９㎞

事業概要

国道６号は、東京を起点とし、土浦、水戸、いわきの各市を経て仙台に至る総延長３９０㎞の主要幹線で、浜通り地方の産業・経済・文化の交流を支える重要な幹線道路である。相馬バイパスは、常磐自動車道相馬ＩＣ(仮称)へのアクセス向上や、相馬市街地の交通混雑緩和を図るほか、相馬地域総合開発（相馬中核工業団地、重要港湾相馬港）で発生する関連交通を円滑に処理することを目的とする道路である。

Ｓ６２年度事業化	Ｈ３年度都市計画決定	Ｈ２年度用地着手	Ｈ１０年度工事着手
全体事業費	約３２０億円	事業進捗率	６６％
供用済延長	２．２㎞		
計画交通量	１６，６００台／日		

費用対効果分析結果	B／C	総費用 (残事業)/(事業全体)	総便益 (残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) １．８ (残事業) ４．５	130/368 億円 事業費： 87/326億円 維持管理費： 43/ 43億円	587/656 億円 走行時間短縮便益： 502/554億円 走行費用減少便益： 80/ 96億円 交通事故減少便益： 5/ 6億円	平成１５年

事業の効果等

・物流効率化の支援（重要港湾相馬港へのアクセス向上が見込まれる）
・生活環境の改善・保全（夜間騒音要請限度を超過している小泉地区の騒音レベル低下が見込まれる）
他１４項目に該当

関係する地方公共団体等の意見

相馬バイパスは、交通渋滞の緩和や沿道環境の改善に重要な役割を果たすことが期待されており、いわき市長をはじめとする関係３市９町３村の首長で構成される福島県浜通り地方開発整備促進協議会より早期整備の要望（平成１５年１１月１９日）を受けている。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はない。

事業の進捗状況、残事業の内容等

【執行済み額】　事　業　費：２１０億円(進捗率66%［暫定80%］)
うち用地費：　６７億円(進捗率概ね100%)(残１件)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・未供用区間において用地買収に時間を要している。
・用地買収について所要手続きに着手し、平成１０年代末の全線供用を目標に事業推進を図る。

施設の構造や工法の変更等

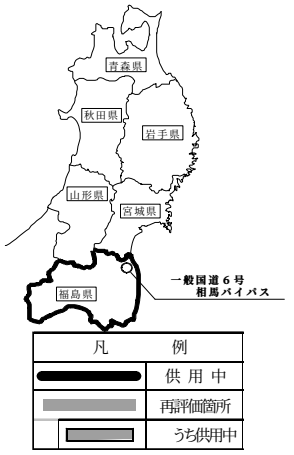
橋台・函渠等の構造物の２車線施工により初期投資の削減を図っている。

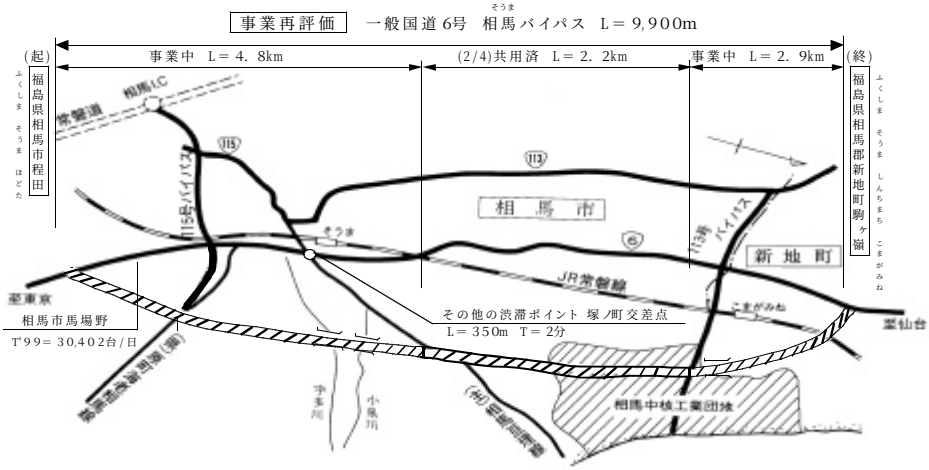
対応方針　事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図





※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。